



復刊第85号

題字吉岡弥生

一九八一年の新年に思う

会長 三神美和



会員の皆様!! 新年おめでとうござ

います。また新しい年がめぐって参りました。一年間何をしたか、ほんやりしているうちに、月日は容赦なく追いかけて参ります。新年を迎える度に、過去一年をふり返り、今年こそはしっかりとやらなければと奮起しております。一九八一年は、お互にしつかり手をつないで、しっかりとやるうではありませんか。

昨年は八十年代の第一目でした。世界は、イラン、イラク戦争という私共にも影響の大きい出来事が突発しました。またアメリカの大統領にレーガン氏が出されるなど、思いがけないことが起りました。また国

内においては、冷夏の影響が全国的に拡がっております。今の流通機構の下では一つの出来事がすぐ私共の生活にひびいて参ります。今年はどうか四季は四季らしくあつて欲しいと思います。また戦争は止んで欲しいと思います。

社会の状況とはうらはらに、私共日本女医学会においては、実りの多い年でありました。群馬県女医学会が主催された五月の総会は、岸直枝支部長をはじめ、会員の先生方のお骨おりによつて、盛大に和気藹藹と行われ、いつまでも楽しい思い出として、会員の忘れ得ない総会でした。

特に群馬医大助教授の平敷淳子氏の学術講演は、私共に診断面における新しい眼を開かせて下さいました。例年行われる日本女医学会研修会は、大原先生、川那部先生を中心として大阪の先生方のご配慮により、京都の新しいホテルで行われました。

これにも多数の会員が出席され、吉岡弥生賞授賞者として鮫島美子教授が立派な学術講演をなされ、また京都大学前総長の平沢興博士の含蓄あるご講演をいただくなど、出席者にとつて感銘深い研修会でありました。京都支部の先生方のご配慮で行われたそのあとの懇親会もまた、講演者を混じえて、和やかな雰囲気にお包まれ、いつまでも忘れ得ぬものがありました。国外においては、八月十七日から二十三日まで、英国パーミンガム市で、第十七回国際女医学会が開かれ、日本からは三つの演題を出題し、七十五名の会員が出席しました。その席で、国際女医学会五十年会員として日本から七十六名が表彰されました。また小野春生氏が国際女医学会の名譽会員に推薦され、佐野アヤ子氏が副会長に選出されました。これからは何れも日本女医学会にとつてよるこばしいことで、本会の国際的活躍の認められた証と言ふべきでありましょう。本年は昨年にも増して、本会を充実したいと考えております。

目次
一九八一年の新年に思う... 三神美和 1
第三回研修会報告
特別講演「人間を考える」 平沢興先生のお話をうかがつて... 野沢良美 2
吉岡弥生賞授賞者業績発表表
薬物性肝障害の臨床... 鮫島美子 3
Circular Letter No. 62... 山崎倫子 4
支部展望 北陸・信越地方
石川支部だより... 米林梅子 5
長野支部だより... 星野礼子 5
忙中閑
ローランサンにいたるまで... 柳瀬路子 6
楽しいコーラスの集い... 小川昭子 7
理事会議事録(九月・十月・十一月) 会員動静... 7
編集後記... 10

剣に追求するあらわれかと思ひます。この意味で日本女医学会の本拠である日本女医学会はしっかりと考えを持ち、後進のために模範を示さねばならないと思ひます。
今年の総会は、五月三十一日、名古屋で、森川支部長を中心として開催される予定です。その際シンポジウムとして「日本女医学会の在り方」が取り上げられるときいております。誠に時宜を得た試みと存じます。限られた時間で十分意をつくし得ないかも知れませんが、積極的意見を十分出し合ひ、そしてそれを実行してゆくことが、日本女医学会の進歩に、発展につながるかと存じます。どんな社会でも孤立して行くことは出来ません。日本女医学会の成立の歴史を見ましてもそのことはうかがえるので、弱い立場の者が会を組織し協力して、自己を磨き、社会に対処し、地位の向上を計つたのであります。民主化された今日でさえ、女医とはということの問題にしておることを思うとき、日本女医学会は一九二〇年、自らを正し、磨き、協力して社会の一員として奉仕しなければならぬと思ひます。実態調査にもありますように、保健活動など公共性の職についている女医も多数あります。また医師会役員として活躍される方も数多くおられます。その功績が認められ表彰された方もあります。私の知る所では、森川みどり理事は

眼科学会から、熊谷美津子氏は東京都知事から表彰をうけました。この様に自分の職業をフルに活用され、自分のためだけでなく、社会のためにつくすことは、日本女医学会にとって重要な課題だと存じます。

国際女医学会記念事業としていろいろの計画をたてました。その一つとして、若い会員への研究助成というのがあります。このことについて昨年漸く具体案がまとまり、全国的に募集しました所、多数の応募がありました。このことは若い女医にとって一つの刺激となり、また日本女医学会への認識が深まってきた証と存じます。

この事業を継続することによって女医の研究意欲を高めるものと信じます。第二の計画として事務所移転の件があります。場所と費用の点で思うようになりませんでした。今年はどうやら実現しそうな気が致します。長い間の念願でありました事務所の問題が解決することになれば、これは日本女医学会にとって一つの節目になると思います。自分の財産としての事務所を持ち、ここに本拠を構え、どっしりと根を張り、力強い国内的、国際的活躍の根城となればどんなにかうれいことかと、私の胸はわくわくしております。それは全会員一丸となつてのご協力が大切でありますので、何卒、今年もよろしくお願い申し上げます。新年に当り一言感想を述べ年頭のご挨拶といたします。

第三回研修会報告
特別講演

人間を考へる

平沢興先生のお話をうかがつて

広報部 野沢 良美

去る十月五日、京都グランドホテルに於て研修講演会を催し、講師として平沢興先生に「人間を考へる」というテーマで二時間に近い間お話を拝聴し、一同楽しく、そして私達の生き方と考へ方に大きな指針を与えてくださる様な御高見を伺うことが出来ましたのは大変幸福なこととございました。

ニーチェは「笑を含まない真理は虚偽である。」と申しましたが、先生のお話は単に専門的な知識に基づくだけではなく広く先生の全人的な、お人柄から流露しているの、ふつくとおらかな魂に触れて「生命感」といふべきものを与えて下さいました。

何よりも先生が若き医学生として人間の難問に或は迷いに直面して些かも自らを欺かず、真向からこれを切りぬけられたその誠実と真摯が、先生の一切を貫くものであつたように拝察いたしました。大学の休みの前に万事を放擲して帰省し、しかもその理由を敢えて問う所がなかつた周囲と時代、就中、両親様のお人柄の大



先生は八十歳におなりになつて、判らぬことがいよいよ多く感ぜられて来る。そしてそれにもかかわらず毎日の生活が面白く楽しい。退屈と云ふことがない。現役以上に忙しい。平凡なことが判らぬという人生の不思議さという感じになりました。私からお話をお始めになりました。

は、ふと東洋に「晚晴」という言葉があることを思い出し、誠実と真心を以て一貫して人生の大道を歩まれた先生の老々大々とした大きなご境涯に触れる喜びを感じたのであります。

三

人間が、原人、旧人、新人の過程を経て二百万年の長年月をついやして現在に到達したというその人間生命を分析してみると(一)植物的生命、(二)動物的生命、(三)精神的生命に分けられますが、第三の精神的生命は大脳皮質の働きによるのでその大脳皮質の神経細胞は百四十億といわれており、山下清のような人もこの百四十億の細胞の或る部分を生かして立派な作品を残したのであり、チャーチルにせよ、チャールズ・ダーウィンにせよ、決して世の「優等生」ではなかつたが独自の道を求め、独自の細胞を生かして、独自の人物になつたのであり、頭の長さ悪さなどというのは表面的なみせかけにすぎないのであつて、むしろ一事に傾倒する情熱をたよとして努力を重ねて独創に到達したものであり、エールリツヒのサルバルサンの発見に於ける、野口英世の梅毒麻痺症の病原体決定に於ける皆天才といわんよりはむしろ馬鹿正直の馬鹿力によつてなされた業績であり、思つてここに到れば法然上人の所謂、極楽参りの秘決「一向に念仏すべし」に通ずるものがあると、独創に非ざる独創、鈍才の情熱の尊さを力説されました。

謹賀新年

- | | |
|------|-------|
| 会 長 | 三神 美和 |
| 副会長 | 福永ひろ子 |
| 常任理事 | 柳瀬 路子 |
| | 山崎 倫子 |
| | 稲葉 幸子 |
| | 小俣喜久子 |
| | 久保田くら |
| | 佐藤千代子 |
| | 竹内 静香 |
| | 野沢 良美 |
| | 松岡 宏子 |
| | 丸山 芙実 |
| | 守安 素女 |
| | 八木 貞子 |
| | 尾中 妙子 |
| | 大原 一枝 |
| 理 事 | 川口 正子 |

四

現在は四十五億光年の彼方にも天体があることが判っている。しかしそれは宇宙の果であるわけではない。そういう広大な宇宙の中であって四十億人の人間の中であって、一人の人間の重さというものは、今の世の中にあってはさほど大事にされていないが、この宇宙全体の中でも物を考えて行動するという生物は人間以外にない。宇宙全体からいえば、一



懇親会

粒の砂にも当らぬ小さい人間が、宇宙の不思議と広さを思い、今日生きていく日を使い、八十年の生命を思うことが実に面白く不思議に感じられる。二千五百年前、孔子の恕(己を思うように人のことを思う)という言葉の尊さと妙味、心情を称えられ、且つバートランド・ラッセルが六十年前に「科学的な知的な文化は日進月歩であるが情愫の文化(喜怒哀楽の

情、信仰、道德等)は余り進んでいない。だから文化文化と言っている方はいない。だから文化文化と言っている方はいない。だから文化文化と言っている方はいない。

情、信仰、道德等)は余り進んでいない。だから文化文化と言っている方はいない。だから文化文化と言っている方はいない。だから文化文化と言っている方はいない。

吉岡弥生賞授賞者業績発表

薬物性肝障害の臨床

関西医大教授 鮫島 美子

—まえがき—

薬物の開発が進み、治療医学に輝かしい効果をあげてきた反面、これらの薬物による有害反応が日常診療のなかで大きな隘路となってきた。薬物有害反応の一つである薬物性肝障害についても、各方面から関心が高まった。多種類の薬物による多数の症例が報告されている。

薬物性肝障害は、原因によって肝毒性(中毒性)肝障害と過敏性肝障害とに分類される。また肝組織像からは急性薬物起因性肝障害(胆汁うっ滞型・肝細胞障害型・混合型・脂肪肝)と慢性薬物起因性肝障害(胆汁うっ滞型・肝細胞障害型・蓄積型・腫瘍形成型)に分類されている。日

五

以上私の幼ない理解力と要約では先生のお話の醍醐味が失せてしまつて、誠に申しわけなく思います。皆様が直接に先生の警咳に接せられま

なご講演会の後の懇親会に於いて先生の八十歳のお誕生日を共に祝いさせて戴きましたことに、重なる邂逅の不思議さを感じた次第でございます。



鮫島 美子

薬、抗不整脈薬、抗動脈硬化用薬、抗癌剤などであるが、長期間継続使用する蛋白同化ホルモン、経口避妊薬では良性・悪性肝腫瘍例も報告されている。
—薬物性肝障害の成因—
肝に対する障害作用は、直接薬物あるいはその代謝産物による肝障害(肝毒性)と、宿主側に原因のある過敏性肝障害とに大別することができ。
肝毒性肝障害の成因：：体内に入った薬物や毒物は、肝細胞の滑面小胞体にある薬物代謝酵素系で酸化・還元・加水分解・抱合などが行われ水溶性をたかめて体外へ排泄される。薬物・毒物の中には本酵素系で代謝をうけることによつて毒性の出現するものがあり、このことは四塩化炭素、癌原性物質の3,4ベンツピレン、大量内服すると劇症肝炎を発生するアセトアミノフェンなどでよく研究されている。即ち薬物代謝酵素系で代謝をうけた結果生じた中間代謝産物が、肝蛋白と共有結合を起すことと肝障害が出現する。
過敏性肝障害の成因：：過敏性肝障害は薬物に感作されることによつて起こるものであるが、薬物はハプテンであるため、肝で代謝される過程で、肝蛋白とくに小胞体画分と、薬物あるいはその中間代謝産物が、免疫学的にハプテン(薬物)キヤリア(肝蛋白)を形成し、このものが生体に異物として認識されて過敏性肝障害が発現する。抗原によつて感作

理事

川島富久子

川那部喜美子

齊藤イサヲ

佐野アヤ子

清水 友代

鈴木 文子

野口登志子

野呂 幸枝

蓮井 敏子

平瀬 文子

藤井 儔子

藤田 親代

マッキンストリ千枝子

森川みどり

山本 杉

今野 信子

添田 百枝

山口 三重

監事



研修会風景

されたリンパ球は、その特異抗原に遭遇すると免疫反応を起こし、リンパ球幼若化因子、マクロファージ遊走阻止因子をはじめ各種のリンホカインを産生するが、これらは過敏性肝障害の診断に用いられている。

—診断—

診断に際しては病歴の調査、自覚症状、肝機能検査のほか、過敏性のもでは好酸球数、起因薬物の決定にはリンパ球幼若化試験、マクロファージ遊走阻止試験、再投与試験などが実施されている。薬物と肝研究会における薬物過敏性肝障害の診断基準案を表に示した。

—病歴の調査—

現在使用中の薬物は勿論、一〜二か月以前に使用した薬物についても調査しなければならぬ。肝障害の患者をみれば、一応薬物も疑ってみる必要がある、ことに胆汁うっ滞型の肝障害に対しては本症を強く疑うべきである。服用開始後一〜四週に肝機能異常の出現する頻度が最も高い

が、時には三カ月以上たつて発症する場合もある。

自覚症状：食欲不振、悪心、嘔吐、上腹部痛などの消化器症状のほか、発熱、発疹、痒痒感、関節痛などがあり、他覚所見としては黄疸と肝腫大が主なものである。

一般検査：白血球の減少する症例は少なく、過敏性肝障害の約1/2の症例で八、〇〇〇〜一〇、〇〇〇程度の増加をみる。好酸球増多は約半数の症例でみられるので診断の助けとなる。

肝機能検査：肝組織像に相応した成績を示す。肝細胞障害型ではGOT・GPT・LDH・ビリルビン値上昇、重症になればプロトロンビン時間延長など、胆汁うっ滞型では胆管酵素即ちアルカリフォスファターゼLAP・γ-GTPおよびビリルビン・コレステロールの上昇がみられる。

—治療—

治療の第一は起因薬物をできるだけ速かに中止することで、これのみで治癒する症例もある。あらゆる薬物は肝障害を起こす可能性があるもので、薬物使用中は肝障害に対し無関心であってはならない。急性期の安静、食餌、肝保護剤などは急性ウイルス肝炎と同様である。また高度の胆汁うっ滞が持続するものでは、副腎皮質ステロイドを使用、黄疸の軽減とともに漸減する方法が行われている。薬物による劇症ないし亜急性肝炎に対しては大量の副腎ステロイ

ド、交換輸血、人工肝補助装置の有効であった症例が報告されている。

—むすび—

肝障害を起こす薬物は多種類にほるので、肝疾患患者をみれば一応薬物も疑い病歴を精査する必要がある。とくに肝内胆汁うっ滞の強い症例は本症を念頭におくべきであろう。また長期間、あるいは多剤併用を行う場合には、薬物代謝に影響を与え、薬効や毒性の増強または効果の軽減が起こることも予測しておかねばならない。定期的に肝機能検査を実施することや、腎障害、新生児・栄養障害のある患者では、薬物代謝能力の低下が推測されるので、大量投与をさげることなどが、臨床医にとって留意すべき点と考える。

表 過敏性肝障害の診断基準案(薬物と肝研究会)

- 1) 薬物の服用開始後(1〜4週*)に肝機能障害を認める。
- 2) 初発症状として発熱、発疹、皮膚痒疹、黄疸などを認める(2項目以上を陽性とする)
- 3) 末梢血液像に、好酸球増多(6%以上)、または白血球増多を認める。*
- 4) 偶発の再投与により、肝障害の発現を認める。
- 5) 薬物感受性試験—リンパ球培養試験、皮膚試験—が陽性である。

*の期間についてはとくに限定しない。
**血液像は初期における検査が望ましい。
確診：1)、4)または1)、5)を満たすもの。
疑診：1)、2)または1)、3)とする。

Circular Letter No.62

国際連絡書記 山崎 倫子(訳)

新年おめでとうございます。皆様とご家族ご一同のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

一九八〇〜一九八二年期の国際女医会各委員長は次の通りです。

- 財務 小野春生(日本)
- PR及び宣伝 B・タンボリン (カナダ)
- 募金 佐野アヤ子(日本)
- 事業 M・パーク (アメリカ)
- トピック H・ストルツ (ブラジル)
- H・ティーム (ドイツ)
- A・ハスライン (オーストラリア)
- 母子衛生 P・タッドベリ (アメリカ)
- 決議 (アメリカ)

第十八回国際女医学会議

既に連絡済の通り第十八回MWWIA会議は一九八二年十一月二十一日から二十七日まで、フィリピンのマニラで開催されます。フィリピン組織委員会の準備は順調に進んでいます。学術プログラムのテーマ“Human Management in Medicine” (心ある医療)についてもお知らせした通りです。論文の募集をしております。

のご用意下さい。申込はMWWIA規定の形式により論文のタイトル・演者氏名等記入の上百五十文字以内の抄録をつけて一九八一年四月末日迄に、連絡書記を通して国際本部に送ることになっております。

(おたずねは山崎迄)

国際女医会長

Dr. レッドショーの消息

Dr. レッドショーは、オスローで開かれる北ヨーロッパ地域女医学会議に出席したあと一九八一年五月初旬にウィーンを訪れる予定。その後、MWWIAとUN(国際連合)との関係を深めるためニューヨークに飛びユニセフ役員会に出席します。私どもは彼女が国際的関係に関心と熱意を持っていることに対し感謝するものがあります。

六月二十四、二十五、二十六の三日間に亘り行われる国際女医学会役員会の議長として再びウィーンにもどることになっております。以上

お断り 紙面の都合により寄附図書及びパンフレット案内は次号に掲載させていただきます。

支部展望

北陸・信越地方

石川だより

石川支部 米林 梅子



みますと、北国に住むものとして、どうしても避けられないのは「雪」でございます。なべて生きとし生けるものは、雪に真向う生活を強いられます。この地方の家々では樹木を保護するのに「雪づり」というのを致します。

先生方には今年もお健やかでありますよう祈念しつつ、おたよりをさせていただきます。

加賀百万石城下町としてご存じの金沢は、戦火を免れ、一部の商店街の近代化を除いては、藩政時代の姿に急激な変革を加えられることなく伝統文化を今でも見ることが出来、郷愁が感じられる町といわれております。そして景勝の地、能登。

輪島塗・九谷焼を愛でながら、海の幸、山の幸を心ゆくまで味わう醍醐味とは、この地をお訪ね下さるエトランゼの言葉です。私達はそれをうかがって嬉しく、また光栄にも存じています。しかし一年を考えると、

兼六園の雪づりも十一月一日からはじめられました。写真でおわかりいただけだと思いますが、樹の真中に高い支柱をたて、頂点から藁縄をおろし、円錐状に放って、(大木では二三百筋)一本一本の枝を吊るのです。出来上がると放射状の見事な幾何学模様を描き出します。これらが、新雪をうつつらと被った風情は、雪景色に一層の趣を添えるように思われます。園内では、作業を十二月中旬まで続け、約千二百本の古木を春の雪どけまで護ります。ちなみに、これらに使われる藁縄の長さは、百二十キロにのぼるといいます。

冬を耐えて早春の頃、雲の裂けめを洩れる淡い陽ざしの中で、ふわりと光る花びらのように風花が舞うのです。そして雪解け水が冷たく流れ流れる犀川や浅野川で「友禅流し」がはじまるのもこの頃です。加能の人々が能楽につよい執着を持ったのは、

一つには、一年の大半が雨雪に降りこめられているこの土地の生活では、屋内の座敷や舞台で行われる謡・舞・囃子あるいは能などが人々の心の慰めであったであろう」と、金大密田名誉教授は著書に述べておられます。

きびしい風雪が生んだ郷土出身の文化人達を挙げますと、江戸時代の女性俳人の逸材、加賀の千代女は加賀松任で七十三才の生涯を過ごしました。明治以後では、金沢が送り出した三人の文豪―泉鏡花、徳田秋声、室生犀星。歌人・国文学者の尾山篤二郎。評論家の三宅雪嶺。加賀の三太郎の称があつた哲学者の西田幾多郎、仏教学者の鈴木大拙(本名貞太郎)、国文学者の藤岡作太郎。さらに、

化学者の高峰讓吉。物理学者の中谷宇吉郎。画家の宮本三郎。彫刻家の吉田三郎等諸氏が数えられます。日本女医学会石川支部会員達は、県内女医の先達、大岸鹿姉、荒井梅子姉を常に尊敬し、誇りに思い、その高邁な医師の倫理を實踐された両姉の生涯を鑑と仰いで、日夜精励いたしております。

風土が培った性格と申しますか、やさしく慎ましやかな裡に秘められた強靱さゆえに、職業と家庭の両立生活を、いとも鮮やかにこなしているのではないのでしょうか。モラルをふまえて現実を把握し、さらに、よりよきものを目指して努力する当支部の方々に、限らない期待をよせたいと存じます。

長野だより

長野支部 星野 礼子

南北アルプスには、三千米級の山波が連なっていて、長野県会員はその山岳地帯の中の市町村に点在している。支部の地域は広く、南信は名古屋、中信は新宿へ、北信は上野へ出るのに近いので、南北信の交通は極めて不便で、支部総会を開催するにも、大きな障害となっている。この南北信を分断していた立科山、八ヶ岳、美ヶ原の下に近年トンネルが開通したので、自動車の便は良くなった。しかし鉄道を利用するとなる

と、片道四、五時間を要するので、支部総会を開くとなると、松本では南信の人が多く、長野では北信の人が主となつてしまひ、同じ長野県に在住してはいるが、その連絡となると、交通が大きな支障となっている。その中であつて日本女医学会五十名は、あたえられた使命感を正しく質実に行動している。戦前馬の背にゆられながら山道を一日がかりで往診しなければならなかつた山の中の不便な所にも今は自動車で行かれ

るようになった。鬼女紅葉狩で有名な戸隠高原へは長野から一時間とはかからないし、日本アルプスの中心地の上高地へは松本から一時間、美ヶ原山頂へも上田、松本、諏訪から共に一時間、その中には眺望絶佳な立科ピーナスラインがハイウェイとして利用出来るようになって、山国の長野支部会員は、医業のかたわら、俳諧、短歌に造詣深く、医報その他の俳壇と歌壇に投稿されていられる多才の方々がある。

南北信州のちやうど中間に当るところに昔から中風で知られる、鹿教湯温泉がある。ここは大変不便な所であつたが、三才山トンネルが開通したので、松本からも上田からも一時間で行かれるようになった。昭和四十年から長野県医師会千余名が協力して医師会事業として、奥鹿教湯温泉病院を経営している、病院の玄関前に「失つたものをかぞえるな、残つたものを生かさう」とリハビリ



テーションにふさわしい諺が、大きな石の中にレリーフで嵌め込まれていて、患者に希望と勇気を与えている。周囲は深い山波に囲まれていて、車の騒音も余り聞えない閑静な場所なので長期療養に最適な環境といえる。

鹿教湯は古来、中気の湯として専門病院が出来る前から、十数軒の温泉旅館があつて、全国から恢復期の患者が湯治目的で来ていた所なので、遊蕩的なものは全くなく、毎年定期的に療養のために来る者、静養や息抜のためには中高年層の人達には打つてつけの所である。「中気坂」と呼ばれている坂道があつて、患者の安全を計った、丈夫な手摺が両側に設けられていて、坂を上りつめると観音堂があつて、患者の状態により訓練のため手摺につかまりながら、坂道を行き交う人々は、自分より軽い人を見ると、早くあの人位になりたいと思ひ、自分より重傷の人を見ては慰められている。パーデン・パーデン、ウイスパーデン、ピアチゴルス、エッセントキ等の西欧式湯治場を視察したある金持が、外国式を真似た湯治場を作つたが、風俗習慣の全く異なる日本には合わなくて、二年足らずで閉鎖してしまつた。私もパーデン・パーデンでは温泉医の処方にしたがつて一日がかりの療養風景を見学した事があるが、長野県医師会直営の奥鹿教湯温泉病院は、日本人社会に誇るものといえる。なおここには厚生連の温泉病院もある。

忙中閑

ローランサンにいたるまで

世田谷支部 柳瀬 路子



であれ、源氏であれ、三〇分でも一時間でも滔々と暗誦されたものであつた。その名調子にうっとり聞きほれて古典が大好きになり、自らの脳裡に描く夢幻の世界に限りない愛着と美をそこに感じていた。

医学生時代は、昔の女子医専であつたから男子校の大学と違つて高等学校時代というものがなかつた。そのため基礎教育を一年間で仕上げたしまわなければならなかつたので、通学と予習復習だけに時間をとられ、まとまつたものを勉強する余裕は無かつたように思う。それでも余暇に読む本が日本文学から西洋文学に変わり、多くの人と同じようにドストエフスキーやモーパッサンを読みふけるようになった。日本のものでは随筆をよく読んだように思う。その後、随筆から美術の世界に目が開け、医局時代はしきりと美術全書を繙いていたように憶えている。

昔は絵の展覧会といつても、今のようによくの個展が常時ひらかれていくという事はなかつた。帝展とか院展、二科展、青龍展などが年に一回開かれるだけで、上野の山に足を運んで、大観や栖鳳、龍子らのいかに取り澄ました絵を見るのがせいぜいであつた。時折り奇抜な構図

に遭遇して感心したりしたこともあるが、私はどちらかというと日本画はあまり好きでなかつた。かといつて生々しい洋画にも心を惹かれず、その頃はむしろ彫刻に魅力を感じていた。美術書でみるギリシア彫刻に心を奪われたり、ミケランジェロの写実的な力強さに驚嘆したりしていた。ミケランジェロの伝記を読みあさつたりしていたのもその頃であつた。

戦後になってヨーロッパへも旅行できるようになり、パリのルーブルやローマのボルゲーゼなどの美術館で直接ミロを見、カノーヴァを見たときの感激は今考えても胸の動悸が高まる思いがする。冷たい大理石の石塊がピロドの襷の装を軟かに表現し、ナポレオンの妹がモデルといわれる女人のふくよかな曲線が、肌のぬくもりを感じさせるばかりに如実に表現されているのをこの眼で見た時は、ただもうその量感と現実感に圧倒されてしまつた。西洋の彫刻は至上のものであるとさえ私には思えたのである。

ヨーロッパ行も度重なり、Bosca Centuryとさわがしいガイドの科白もマンネリと思う頃になつてくると、どうもあちらの彫刻の顔が気になり出した。どれもがうつろな眼を見開き、類型化した顔で魂が入っていないように見えはじめた。それでもアクロポリスの丘の上の小ざつぱりした美術館で、昔「古式の笑」という本を読んでいつかは見たいと思つていた憧れのアルカイック・スマ

イルに対面した時は、何とも言えぬ人間臭い乙女達の表情にドッキリするほど感激した。しかしフロレンスのメディチ家の墓の「昼と夜」も、ローマのパチカンの「ピエタ」でさえも、何となく縁無き他人事のような感じがし、私の心には入り込まなくなつてきた。

それより前、戦災で何も彼も焼失してしまつて、空しい日々を過していた頃、多分昭和二六年頃の事かと思ふが、行きずりにふとしたことで、ピンクとグレイと薄墨色の二号大の小さな幻想的なモチーフの二人の少女を描いた絵を手に入れた。作者の名も知らず、ただ心惹かれるままに買つてきた一枚の絵であつたが、これが私とローランサンとの出逢いの端緒になつたのである。もち論コビーであるが、外国製らしく良く出来ていて、その物悲しい中に華やかな夢が思ひついているような優しさが、戦後のやりきれない私の心によく馴染んだのだらうと思ふ。

この絵のほんものに、偶然去年池袋のサンシャインビルの一階で出あつた。ローランサンという名の喫茶室でお目にかかつたのである。本物は思いもかけない大きな絵であつた。この出逢いですっかりこの絵に魅せられ、だんだん調べていくうち画家はパリジェンヌのローランサンという人であることがわかつた。それから折にふれ、彼女の絵を集めはじめた(もち論コビーであるが)。そのコビーも四・五点になつたが、彼女に

関する本はなかなか手に入らなかった。二年ほど前からローランサンがブームとなり、あちこちで展覧会が催され、彼女の画学生時代から八〇歳に至るまでの本物の絵を見ることも出来た。また彼女のアルヌボーにおける役割、アポリネールとの恋、沢田美喜さんや堀口大学さんとの交遊関係などいろいろのこととも知ることが出来るようになった。今はコピーも八、九点になり、どうしても本物が一点ほしいと、三越の番頭さんに頼んでサザビーで落して来てもらった。真珠の首飾りという半身像のほんものを一枚持っている。これは額も古びた骨董品で、絵の裏面には出所も書いてあり、まごうかたなき本物で、私の唯一の価値あるコレクションである。例のモデルで、首飾りの真珠があつさりとした筆致で適確に描かれている。

彼女の描く女の顔は、一つ一つ違った女の性が物憂く描かれているように思う。女性を美しくみせる明るい澄んだ華やかな色彩で、夢幻の世界を描いているようなローランサンの絵は、綺麗事の好きな女の性そのものかもしれない。しかも淡い色彩の中に浮く女性の顔は、女の哀切——いぢらしさ——を描き出して私の心を惹く。彼女のピンク・グレイ、黄、オレンジ、緑は、彼女だけの色であり、他の誰の色でもない。モデルを借りて表現しても、描かれている女はすべてローランサン自身であるように思える。



安田生命ホールにて

楽しいコーラスの集い

都下支部 小川 昭子

私ども、医学部、薬学部、同窓生及びその友人、義姉妹は、数年前からタンゴの北村維章先生と、二期会の渡部せつ子先生の指導のもとに、コーラスを楽しんでおります。学生時代から音楽部で活躍した音楽狂が、ほぼ子育てが終った頃、再びコーラスのハーモニーをなつかしみ、発足いたしました。

それぞれ、開業、研究所、病院、大学等で、人様の生命を預るといふ激職についておりますが、一同揃って発声をし、コーラスのハーモニーを楽しむことは、心身の疲労をぬぐい去り、又翌日への活力の源になっております。

私の美しいものへの憧れの道は、目下ローランサンで行きどまっています。これからどう変わるかはわからないが、今のところ、ローランサンに惹かれて放してある。

彫刻の話に戻ると、ギリシア彫刻に失望した私は仏像に戻った。それも日本の仏像にである。インドの仏像も中国の仏像も私の好みにあわない。日本の貞観期の仏像が好きである。日本の仏像の顔を見ていると、人格、それも人間よりずつつと程度

の良いいろんな人を持ってきた人と相対しているような気になる。魂が入っているというのであろうか、心で語りかけることが出来る像である。

私の良いと思うもの、美しいと思うものは、換言すれば私の好きなののである。芸術的に価値が高いか低いか、それは私には関係ない。私には自分が一番好きなものが一番美しいものである。

(月刊新医療より転載)

音楽の好きな人に悪人はいないとよく申しますが、私どもも唄っている時は純粹な若い時代の心に帰っております。最近、十余年先輩の先生も入会して下さり、大変ご熱心で、後輩の私どもますますの励みになっております。

月二回〜三回の練習日には、一同万難を排して出席いたします。そして練習の後には、雑談に笑い、毎日の診療の苦勞話、知識の交換、時には家族の悲しい出来事や喜びを分かち合い、助け合い、ますます友情を深めることが出来、一同のオアシスとなっております。音楽好きの友人は、どうしてこんなに純粹で、心暖い方ばかりなのかと目を見張る思いがするのですが、同時に、自分もその中の一人のメンバーであることを大変誇りに思えるのです。



一年二回の演奏会に、満員の客席から拍手をいただく時、努力の甲斐があつたと、満足感を覚え、感慨無量になり、うれし涙がこぼれることもあります。

これからも、仕事に励みながら、趣味もつづけ、美しいハーモニーで世の荒波で穢される心を洗い流し、いつまでも心だけは若々しく、清らかでありたいと願っております。

理事会議事録

- 日時 昭和五十五年九月二十七日
場所 至誠会館 四階会議室
出席(敬称略)
三神、福永、柳瀬、山崎、小俣、久保田、佐藤、竹内、野沢、松岡、丸山、守安、八木、川口、川島、川那部、齊藤、佐野、鈴木、野口、平瀬、藤田、マッキンストリ、森川、山本、今野、添田
欠席(敬称略)
稲葉、尾中、大原、清水、野呂、蓮井、藤井、山口
庶務報告 松岡常任理事
7月26日 常任理事会を行う
8月12日 日本女医会誌、年金パフレット、会費納入願、日本女医の実態調査報告書第二報を全会員に発送する
8月17日 23日 国際女医会パブリックミーティング開催され、日本から会員七十二名と同伴者六名参加する
8月18日 静岡支部へガス爆発災害見舞をする、支部より全員無事との連絡あり
8月25日 「生活新発見」と題して柳瀬副会長テレビ出演し、ルーペンダンを普及した
9月1日 福岡、佐賀、熊本、長崎、大分、山口、北海道支部へ集中豪雨災害見舞をする、佐賀熊本、長崎、山口支部より見舞に対し礼状あり、佐賀支部の北島綾子先生宅が床上浸水につき

見舞金をする、後日礼状あり

9月4日 日本女医の実態調査報告書第二報を各関係機関に寄贈する(四七七部)礼状多数あり

9月5日 研修講演会の通知を全会員に発送する

9月9日 会員動静について各支部長に連絡する

9月25日 事務所移転準備委員会を行う

その他
・故南春枝先生ご遺族より香典の礼状あり

・広島支部長富永睦子先生退会につき支部長の選出を依頼する

報告事項

(1)日本女子社会教育会より昭和五十五年度「全国家庭教育研究会」の開催について

(2)国立婦人教育会館より「昭和五十五年度婦人学級研究会」の講演の一般公開について

(3)東京都都民生活局婦人青少年部婦人計画課より会議の開催について

会計報告

川口理事

七、八月別紙どおり 承認
現在のところ会費納入率は、例年なみである

議題

一、定款細則第二章役員の見直し
理事の選挙方法第十四条と役員選出第十五条について種々検討する
が次回継続審議となる

二、第二十六回定時総会について
日時 昭和五十六年五月三十日(出)

三十一日(日)

場所 愛知県名古屋市 ナゴヤキヤッスルホテル
三十日(前日)に旅行、三十一日に総会、総会終了後懇談会を行う予定、以上予告として会誌に掲載する

三、学術研究助成について
日本女医会学術研究助成の案内状を各関係大学及び研究所に公募の書類を発送する、また会誌に掲載する

四、職員就業規則について
退職金支給率表について勤務年限三年未満は退職金なしにしてはどうか、その他種々意見の交換あるも今日まで職員からの意見が出されないので、これを決定した案としても然りであるが、再度職員の意見を聞くことが望ましいとの意見があつて継続審議とする

五、その他

(1)講演研修会について
十月五日の研修会は、多数の出席者を予定している

(2)事務所移転について
事務所移転準備委員会より渋谷区宮益坂に新築される売事務所物件について説明あり

・渋谷区渋谷二一八―七
・地積 一〇七、七七坪
・鉄筋コンクリート 五階建
一、二階 店舗
三、四階 売事務所
五階 宮野氏宅
・分譲価格 坪一八五万円

・所有者 宮野

・三階二室(三〇一、三〇二) または四階(四〇一、四〇二) 一室十四坪、二室九坪 計二十三坪位

・建築 三和建物株式会社
・四二五五万円の物件に対して 不動産取得税 七十六万五千九〇〇円 購入時

固定資産税 三十五万七千四二〇円

都市計画税 五万一千六〇〇円

管理費 四万五千元

光熱費(概算) 二万円

以上の物件について委員会で検討する、なお三和建物(株)について詳しく調査する場合は、弁護士を頼むこともできる。

(3)会員慶弔費について
会費値上げにともない会員慶弔費の値上げを検討

・災害見舞金
全面冠水、床上浸水 一万円
床下浸水 五千元
火災見舞金 全焼 一万円
・会員死亡香典 一万円

ただし、日本女医会会費を死亡判明年より三年前まで納入している会員に対し香典を供す

(4)国連婦人の十年中間年日本大会実行委員会より分担金について 五万円分担

(5)支部長欠員支部について

奈良支部長代行の倉八千代先生病気のため支部長依頼を保留する

(6)国際女医会パーミンガム会議報告、その他

a、第十八回国際女医会議
フィリピンのマニラ
一九八二年十一月二十一日から二十六日

会長 Dr. レッドショウ

b、第十九回国際女医会議
カナダ 一九八四年
会長 Dr. ゴメス

c、パーミンガム会議報告
八月十七日から二十三日までパーミンガムで開催され、約六百名の参加者があり、日本からは七十五名であった

・テーマ 発展途上国及び先進国における医療の優先
・論文 約百題 日本から三題提出する

・会議内容を総括すると
①まだ貧困、無智、文盲及び非衛生に苦しむ人口の多い国々では、伝染病予防、母子衛生、家族計画等の医療を第一優先としている

②先進国では、アルコール、麻薬、向精神薬を始めとするさまざまな薬品常用が多くなる問題の惹起

③医師と患者の人間関係の強い医療から医学の進歩にと

もないコンピュータ診断、ロボット治療にかわりつつある

④保健医療制度の変革及び複雑化

⑤新興国では、国をあげてプライマリ・ケアに、医療要員の養成に、伝染病予防に、母子衛生に努力している

d、西太平洋地域副会長に佐野アヤ子先生が選出され小野春生先生は、名誉会員に推薦された

e、国際女医会員五十年会員として、日本から七十六名表彰された

以上 久保田くら 松岡 宏子

常任理事会議事録

日時 昭和五十五年十月二十五日
場所 至誠会館 四階会議室
出席(敬称略)
三神、山崎、稲葉、小俣、佐藤、竹内、野沢、松岡、丸山、守安、八木
欠席(敬称略)
福永、柳瀬、久保田

職務報告 松岡常任理事
9月27日 常任理事会、理事会を行う

9月29日 広島支部長選出を依頼する

10月2日 国際女医会五十年会員に表彰状を発送する